

年間第12主日 2017.6.25

一羽のすずめ

マタイ10章26-33

(そのとき、イエスは使徒たちに言われた。)

「人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。わたしが暗闇であなただに言うことを、明るみで言いなさい。耳打ちされたことを、屋根の上で言い広めなさい。体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。

あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。だから、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う。」

説教

きのう帰り道であぶない目にあいました。青信号で道路をわたっていたら左折する自動車に轢かれそうになりました。かすった程度ですんだので、主に感謝しました、ではなくて相手の車をおもわず呪っていました。呪っちゃうなんてまだまだ修行が足りないなあと苦笑いしながら自省しました。

さて、きょうの福音の冒頭に「人々を恐れてはならない」とあります。つづいて、

**体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。マタイ10:28**

神を信じない人など恐れることはなく、あなたが恐れるのは神だろう、という意味にとってもそう間違っていないでしょう。すぐ呪っちゃうわたしなんかにとっては耳に痛いお説教です。マタイの福音を読んでいると、こんなようにみように説教臭い個所にでくわします。10：28節のところもこれだけならただのお説教です。でも、この説教が福音に変わります。

**二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。** マタイ 10:29

クリスマスマジックというか、イエスの福音というのはこうなんだよなあつくづく感じます。

恐れるなとか、恐れよとか、いっているのに、きゅうにスズメがどうのこうのという話になります。でもそれでなんかわかったような救われたような感じになるので不思議だなあ、マジックだよ、とわたしは思います。

1.心くじけて 思い悩み  
などて寂しく 空を仰ぐ  
主イエスこそ わが真（まこと）の友

（繰り返し）

一羽のすずめに 目を注ぎ給（たも）う  
主はわれさえも 支え給うなり  
声高らかに われは歌わん  
一羽のすずめさえ 主は守り給う

2.心静めて 御声聞けば  
恐れは去りて 委（ゆだ）ぬるを得ん  
ただ知らまほし 行く手の道

「新聖歌」285番の歌詞を引用しました。

いじわるされたり、ひどい目にあわされると、だんだん人を恐れるようにな

ります。心がくじかれちゃうわけです。そんなとき上を見るとすずめが見える。そうだイエスさまはすずめのことを語ってくれたよな、

**一羽のすずめに 目を注ぎ給う 主はわれさえも 支え給うなり**

スズメにだって気を配ってくださる、わたしはスズメよりまさっていると励ましてくれたよなあ、わたしのことも支えてくださる。このような意味の讃美歌だとおもいます。

また、あるときイエスさまはこう言って励ましてくださいました。

**空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。**

マタイ 6 : 26

主イエスの福音が一人ひとりのところに届きますように。

-----